

上手に活用して 社会とつながる



最近、頻繁に耳にするようになった「SNS」。その利便性から東日本大震災以降、ますます存在感を増してきています。実際に読者のみなさんも「やってるよ!」という方も多いのではないのでしょうか。今回ままばれでは、宮城教育大学技術教育講座の安藤明伸先生に、SNSの魅力、さらに子どもにインターネットやケータイと上手に付き合わせるためのポイントをうかがいました。大変ためになるお話です。ぜひ実践してみてくださいね。

私の専門は技術科教育と言って、そこにあるテクノロジーを“どのように生活に活かすことが望ましいか”を考える学問領域です。このような立場からご家庭でのSNS活用法や子どもたちの携帯電話の所持などについてお話ししたいと思います。

ママとSNS

—SNS、その特徴は?

SNS(Social Networking Service)は、インターネット上でつながりを増やすためのきっかけとなるサービスです。情報を発信するブログの機能に、人と人とのつながりを強める機能が加わったもので、現実のつながりを持ち込むこともできますし、インターネットの中で新たなつながりを作ることも可能です。

SNSには匿名で利用可能なものや実名登録が原則のものがあり、名前・ニックネーム、趣味・嗜好、出身校などを登録したり、さまざまな人の情報(書き込んだコメント、写真、動画など)を見たり、どんどん情報交換する相手や対象が広がっていきます。

日本でSNSの先駆的な存在となったのが『mixi』です。mixiは、実名・匿名どちらでも利用可能で、自分の友だちだけでなく、さまざまな趣味嗜好、子どもの生まれ年のコミュニティ等があります。

一方で実名登録が原則の『Facebook』は、現実の自分をSNSの中に持ち込みながら情報交換するため、会ったことがなくてもどのような相手なのかを知った上でつながりを持つことができます。

そして、情報共有の即時性に特化したものは『Twitter』が有名です。匿名でも実名でも利用できますが、投稿はわずか140文字という制約があります。まさに“今起きている”あるいは“感じていること”を共有できるツールです。

—どんな点が魅力?

SNSは“情報の意味”がこれまでのものとは異なります。前述の通り「今こういうことをしてます」と提供した情報が温度を持ちます。そしてそれを受け取る側がその情報に関わることができるのです。そこにおもしろみやハマる要素があり、小さな満足感を得られるのではないのでしょうか。

辛い時にたくさんの人たちに励ましてもらったり、自分のコメントに共感してもらい意気投合するなど思わぬつながりができることもあります。

きちんとSNSの設定をすることで、コメントを知人だけに限定することも可能なので、本音や深い話もしやすいことで利用する方も多いようです。

—子育てに活用できますか?

仙台はいわゆる転勤族のご家庭が多いせいか、SNS活動も盛ん。ですから同じ境遇の親を通じて情報を交換できる相手を見つかけられると、子育てや子どもの病気、幼稚園選びなど参考にできると思います。

私も妻と第一子を連れて、知人が一人もいないここ仙台に引っ越してきました。生活の知恵やお買い得情報など細かな情報は雑誌や新聞にはなかなか載っていないですよ。しかし妻がSNSで同世代の主婦のコミュニティを見つけ活用していました。また震災時にSNSから情報を得たという方も多かったのではないのでしょうか。

インターネットで世界とつながるSNSですが、子育てにおいては、地元のローカルな情報やコミュニティを活かすと良いと思います。

—SNSで注意することは?

子育てをしている方の中には、いつかの感情を書いてしまっているケースも見られます。自分は書いたことを忘れても、他の人に書き込みをさかのぼって見られるかもし

れません。また、その感情的な書き込みを、いつか我が子が目にしたらどう思うでしょうか。

子どもが小さいとはいえ、日記感覚で子どものプライバシーに踏み込みすぎた書き込みや子どもの写真を掲載しすぎる方も見かけます。子どもが大きくなってから削除しても拡散した情報は消すことはできません。

おしゃべりの延長だったケータイメール以上に、SNSはその気軽さゆえ、メールを書く際の配慮や感覚も薄れてしまいます。たとえばTwitterのようにオープンな状態でつい自分の状況や愚痴を書いてしまったり…。しかし、それらをもし利害関係のある人が見た場合はどうでしょうか?

写真と場所があれば、ほぼ個人を特定することができます。さらに他の方々とのやりとりにも名前や苗字が登場して点が線になることもあり得ます。それがSNSの怖さなのです。

ネット上では高いリスク管理能力が求められています。まずは始める前にSNSの初期設定をぜひチェックしてください。情報を自分で制御することが必要です。

ネットに流した情報は消えません。その点を常に頭に入れておいてください。

子どもとケータイ

—ケータイを持たせてもいいですか?

ケータイは便利で危険な道具です。ケータイを「持たせる」「持たせなければならない」理由を親子で共通理解しておくことが大切です。

キッズ用のケータイは防犯ベル機能がついているほか、ボタン一つで予め設定した番号へ電話が掛けられ、さらにボタンが押された場所の地図が親のメールアドレスへと送られる機能があります。緊急時の連絡だけを考えると、これで十分です。

親の見えないところで使うケータイに大人と同様のインターネット機能が本当に必要

でしょうか?親御さんにはその点をどうかよく見極めてほしいです。一度その便利さや無限に広がる情報の海、多様にひろがるつながり感を味わうと、もう後には引けません。トラブルの原因になるのはこのインターネット機能がほとんどです。

—どんなトラブルがありますか?

ゲームを入口にしたSNS、つまりゲームを進めるために友だちを紹介したり、広告をクリックし、必然的に課金しなければならないという大人の論理で作られているものが増えていきます。ゲームには明確な終わりがなく、飽きない仕掛け、際限ない仕掛けが待っています。

また、心の隙間に入り込んでくるケースもあります。思春期の子どもたちは「うんうん分かるよ」と優しく言われてしまえば、たとえ見ず知らずの人であっても心を許してしまうこともあります。小さいトラブルから根深いトラブルまで、本当にいろいろあります。大人は理性があり自制もできますが、子どもはそういきませんよね。

現在、フィルタリング機能やゲームを提供する会社やSNSの運営会社では健全化の取り組み・サイバーパトロールを行なっています。しかしそれは、裏を返せばそれだけ事件が起きているということ。大人も子どももフラットな関係になるネットワークコミュニティでは、知らないうちに被害者になるだけでなく、意図せず加害者にもなってしまいます。

子どものインターネット利用はあまりにも危険です。補助輪なしの自転車にいきなり乗せて大きな事故を起こさせるのではなく、まずは補助輪付きですぐに回復できる小さな転倒から体験的に学んでいく必要があります。自由に一人でインターネットを旅させるのではなく、親子でオープンな利用ができるような環境を整えましょう。

宮城教育大学 安藤 明伸 先生

准教授。学術博士。北海道出身。スマートフォンを用いた技能習得教材の開発、拡張現実による飛び出す教科書の開発等、新しいテクノロジーを利用した授業作りを研究。2児の父。

—トラブルを防ぐためには?

子どもにケータイ等を持たせる場合、悪いことをしたら取り上げる・ペナルティを与えるというのはかえって逆効果のことが多いようです。親に相談すると怒られるので子ども同士で解決しようとして余計に事態を悪化させてしまいます。

インターネットでつながるということは、大人も子どもも関係なく、ネットワークで繋がれることを意味します。大人でさえ見抜けない罠がある世界に、子どもが一人で危険を回避するのはかなり難しいのです。子どもにとって、親は禁止する役割よりも守ってくれる存在でありたいものです。

子育ての基本原則は“ケータイ無し”でも生活を送ることができる力を育てる。これを重視してほしいと思います。我々大人がケータイを便利と感じるのは、それが無い生活を体験し、しっかり比較ができるからです。生まれた時からケータイとネットがある生活をしている現代の子どもたちは、今以上の便利さを欲しがり、後に引けなくなります。

今の子どもたちは将来「インターネットが使える携帯電話を必ず使う」と思われます。また、中学生になるとキッズ用のケータイを恥ずかしがり大人と同じケータイを欲しがるといいます。我が家では、その時まで遠ざけておくのではなく、親のケータイを使いながら生活の中で話をする機会を持つようにしています。

